



しもよねだ



No.1 1

学校の教育目標 かしく(よく考える子) あたたく(思いやりのある子) たくましく生きる子(強い体の子) 令和6年1月9日

学徳高き<津田左右吉博士>のふるさと下米田で、**健やかに育つ子ら!**

思いを馳せる

校長 佐藤 亜紀

冒頭に・・・

この度の令和6年能登半島地震により、尊い命を失われた多くの方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々、関係の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。依然、安否が不明の方々、その関係の皆様には、言葉も出てまいりません。一日も早い行方不明者の発見、そして被災地域の皆様、救助活動や復興支援にあたっておられる全ての皆様方の安全、そして被災地の復興を、衷心よりお祈り申し上げます。

心が辛く、心が痛む令和6年の幕開けとなりました。

今、私たちにできることは何か・・・具体的にどう行動に移すことが本当に被災地の方々の思いに寄り添うことになるのか、自問自答しながらも、関係機関から発信されている確かな情報を基に、自分がすべきことを考える毎日です。

ある方の言葉です。

「今、自分が置かれている日常の日々を、精一杯生きてください。そして、心のどこかに、被災地へ思いを馳せていただければ、今はそれで十分です。」

「思いを馳せる」とは、心に向けるという意味があり、具体的な行動で表出できるものではないかもしれませんが、しかし、これまでの記憶や人間の想像力を最大限に働かせ、その地に住む人々に心を寄せることはできます。

本日の始業式で、「思いを馳せる」について、話をしました。

被災地への“思い”と同時に、自分の周りにいる人に“思いを馳せる”とはどういうことなのか、人と人との繋がりがって一体どういうことなのか、想像力を働かせるとはどういうことなのかを考えることを通して、よりよい人間関係を築いていける子どもたちであってほしいと願う気持ちでいっぱいです。

そして話の結びに、2学期にご縁があった寺澤 大祐先生（学校だよりNo.10 参照）の言葉の一節をもう一度、全校で心に留めました。

今日、今を生きることが“奇跡”なのです。（寺澤 大祐氏 いのちの講演会より）

本年も、どうぞよろしく願い申し上げます。